

授業科目名	助産基礎実習 <i>Basic Practicum in Midwifery</i>			担当教員	石山 さゆり、永松 美雪
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	360(8)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	周産期の母子とその家族が安全・安楽に、主体的に出産に臨めるために必要な基本的助産診断・技術能力、態度を習得することを目指す。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期の母子の健康状態を診断し、必要な保健指導が理解できる</li> <li>2. 分娩期の母子の健康状態を診断し、分娩介助が実施できる(10例程度)</li> <li>3. 褥婦の健康状態を診断し、必要な援助が実施できる</li> <li>4. 新生児の健康状態を診断し、必要な援助が実施できる</li> </ol>				
授業計画	<p>I. 目標 (妊娠期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊娠期に必要な診察技術を用い、母子の健康状態を診断できる。</li> <li>2) 妊婦の生活行動、心理社会的な側面、出産育児行動を診断できる。</li> <li>3) 妊婦とその家族が出産・育児に向けて準備ができるような援助ができる。</li> <li>4) 妊婦に必要な保健指導の内容が理解できる。</li> </ol> <p>(分娩期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 分娩期に必要な診察技術を用い、母子の健康状態を診断できる。</li> <li>2) 1)の診断に基づき、母子が安全・安楽に分娩が経過できるような援助が実施できる。</li> <li>3) 母子ともに安全な分娩介助が実施できる。</li> <li>4) 出産直後の産婦、新生児のケアが実施できる。</li> <li>5) 正常分娩からの逸脱を予測し、必要な援助が考えられる。</li> </ol> <p>(産褥・新生児期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 産褥期に必要な診察技術を用い、褥婦の健康状態を診断できる。</li> <li>2) 新生児の発育・発達、胎外生活への適応(健康状態)の診断ができる。</li> <li>3) 褥婦のセルフケア能力を高めるための援助ができる。</li> <li>4) 母乳哺育確立のための援助が実施できる。</li> <li>5) 褥婦をサポートする家族への援助ができる。</li> <li>6) 退院から1か月健診までの母子及び家族の健康状態、家族環境の診断ができる。</li> <li>7) 産後1か月の母子、家族の健康診断ができ、適切な援助について理解できる。</li> <li>8) 親子・家族関係や心理状態を診断し、母子及び家族へ支援について理解できる。</li> </ol> <p>II. 方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習場所：総合病院、産科クリニックで実習を行う。 (福岡赤十字病院、山口赤十字病院、熊本赤十字病院、あさの葉レディースクリニック、筑紫クリニックなど)</li> <li>2) 実習日程：2020年1月6日～2月28日(8週間)</li> </ol>				
学習方法	周産期学、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児のアセスメントとケアの科目を学習し、分娩介助技術を習得したのち臨地実習に臨む。実習前に助産計画案、保健指導案の作成を行い、受け持ち事例の援助に役立てる。分娩経過をアセスメントし、分娩介助を実施する。分娩介助技術は評価表に基づき臨地実習指導者から評価を受ける。夜間実習になる場合もある。				
オフィスアワー	木曜日の昼休み、もしくは必要時メール(石山：s-isdiyama@jrckicn.ac.jp) (永松：m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp)にてアポイントを取って下さい。 実習期間中は実習指導教員が巡回指導を行います。				
テキスト	助産学およびすべての関連科目の図書、文献				
参考文献	助産学およびすべての関連科目の図書、文献				
評価方法	実習評価表(100%)				